

# 第3学年2組 外国語活動

## 単元名 Welcome to the 3-2 Pavilion!

(Let's Try! Unit8 "What's this?" 参照)

### 1 文脈と状況を大切にした単元づくり

本学級では、今年5月にSRU (Slippery Rock University of Pennsylvania) の大学生と交流する機会があった。児童はこの交流会に向け、「留学生に、日本を好きになってもらいたい」「日本に来てよかったと思ってもらいたい」「楽しくいっしょに遊びたい」という目的をもち、「あいさつ」をテーマにした学習に取り組んだ (Let's Try! Unit 1・2 参照)。交流会において児童は、英語で自分の気持ちを表現し、それが相手に伝わった実感を得ることができた。「ほんものに触れる」ことは、児童にとって非常に重要な経験である。

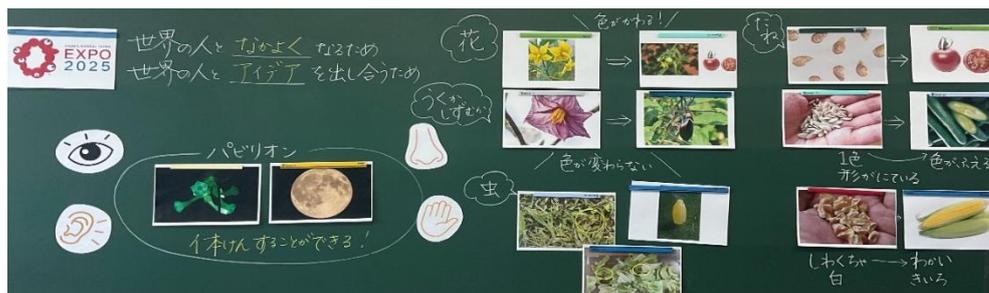
本単元までに児童は「好きな色」「ものの形」「身の回りの数」などをテーマに学習を行ってきた。子どもたちが話す内容に反応しやすい題材を用いて毎時間やり取りを積み重ねてきた。「世界の虹は何色？日本との違いを見つけて伝え合おう」「きれいな昆虫、何色に変わるかな？」「学校の今の遊具の数には、満足?!」など、児童の興味・関心に合わせて設定している。もちろん、児童の中に英語表現がすぐに浸透するわけではない。不完全な英語、たどたどしい英語もたくさん聞こえてくる。それでも根気強く、児童の伝えたいことに反応し、価値付けることによって、児童は、友達や先生に自分の考えを伝えるために、何とかして自分の言葉で伝えようと工夫したり、大切なことを聞き逃さないように一生懸命相手の話を聞こうとしたりする姿が見られるようになった。

本単元の導入では、現在日本で開催されている大阪・関西万博 (EXPO2025) について取り上げた。万博とは、世界各国がよりよい未来に向けてアイデアを持ち寄り、多様な文化や価値観を交流し合う国際的な交流の場であることから、自分の考えや発見を伝え合うことのよさを考える機会にしたいと考えた。身の回りの「これっておもしろい!」「すごい発見かもしれない」「友達に伝えたい」という事柄を、友達や先生と伝え合いたいという思いをもち、友達とやり取りを行う活動を設定している。外国語によるコミュニケーションを通して、自分の伝えたいことについて分かってもらえるよう工夫してクイズを作ったり、友達の話じっくり聞いたりして互いの発見のよさや面白さに気付く経験をしてほしいと願っている。「友達を驚かせること」「虫の成長に感動してもらうこと」「友達を楽しませること」それぞれのめあてをもち、本単元の学習に臨む姿が見られた。

### 2 授業の実際と次時以降の活動について

#### 単元のゴールを決める

本単元の導入では、現在日本で開催されている大阪・関西万博 (EXPO2025) を題材に、児童に「世界の人々と仲良くなる」「世界の人とアイデアを出し合う」ことの大切さを伝えるとともに、身近な不思議や発見を通して自分の思いや考えを伝えようとする意欲を高めることをねらいとした。万博に展示され、話題を呼んでいるものをいくつか伝えながら、パビリオンとは何か、万博とはどんな場かということ、児童の言葉でつかむことができるようにした。万博に展示されているような最先端の技術や未来的な展示物も、出発点を辿ると「身の回りの不思議」「小さな発見」「ワクワクする気持ち」から生まれたものであることを確認した。実際に、花や実、種の写真や生活科・理科で学んだ素材を提示し、「色が変わったり変わらなかったりする」「同じものに見えるのに、中身が違う」といった対比的な発見を視覚的に示すことで、児童の中にある身近な驚きを引き出した。これらは一見小さなものであっても、「友達に伝えたい」「自分なりのやり方で見せたい」という表現意欲を高めるきっかけとなった。「楽しそう!みんなの発見を集めたら、『3の2パビリオン』だね」という声が挙がった。①友達と仲良くなるために②友達とアイデアを出し合うために、ゴール「3の2パビリオンを開こう」を設定した。



ゴールの設定時 (1時目) の板書

## 表現に慣れ親しみながら、探究のきっかけを深める

身の回りの素材を使った様々な実験や観察の結果（色の変化、中身当てクイズなど）を写真や実物を用いて実演し、“What color?” “What’s this?” “What’s inside?” などといった簡単な英語表現でクイズ形式のやり取りを行った。活動を通して、児童は英語で問いかけたり答えたりすることの面白さや、伝わる喜びを体感しながら、自然と表現に慣れ親しむことができた。また、驚きや発見を共有する中で、「これってなぜ?」「自分もやってみたい」という気持ちが高まり、自分の興味関心を基にパビリオンのテーマを考えるきっかけとなった。

導入で扱った「身の回りの不思議や発見」が、実は未来のアイデアの源になっていることを確認した上で、「自分たちのパビリオンをつくるための問い」を見つけることにつながった。

### 【実際の Small Talk の例】

T: What’s this?  
 S: 葉っぱ！葉っぱって、なんていうの？  
 S: いや、葉っぱじゃない。虫だよ。  
 T: That’s right. There are bugs.  
 S: ええ？！  
 T: How many bugs? 1...2...3...?  
 S: いたいた！いっぱいいる！  
 S: 12！  
 T: How many bugs?  
 S: Twelve!  
 T: Good. 12 bugs. (指で 12 を示す) Nice job.



スライドで用いた写真（昆虫の擬態）

## こんなパビリオンをつくりたい！を決める

「おもしろい!」「ふしぎ!」「どうして?」といった気付きが、探究や表現の出発点であることを意識付け、身近な素材に対してどんな問いが生まれるかを対話的に引き出していった。単に活動を決めるためではなく、児童が自分の問いに出会い、それを友達とやり取りしたくなるような“ワクワクする発見”として見つめ直すことを大切にしたい時間である。児童は自分の興味・関心に合わせて展示ブース（パビリオン）をつくり、クイズの内容を考えていた。

パビリオン名	不思議、発見の内容	パビリオン名	不思議、発見の内容
虫パビリオン	虫の成長のふしぎ	うく?しずむ?パビリオン	水に浮くもの、沈むもののふしぎ
お絵かきパビリオン	水に浮き出るふしぎな絵	ペッパーパビリオン	胡椒を水に浮かべた時のふしぎな動き
ビーズパビリオン	消臭ビーズのふしぎ	動物パビリオン	にている動物のふしぎ
色水パビリオン	まぜると色が変わるふしぎ	花パビリオン	花が実になると色が変わるふしぎ
?ボックスパビリオン	ふしぎな感触をもつ物のふしぎ	コインピカピカパビリオン	コインをピカピカにする調味料のふしぎ
氷パビリオン	凍らせると感触が変わる物のふしぎ		

## 3 本時について

本時は、児童がそれぞれつくったパビリオンで、自分たちの見つけた不思議や発見について友達と伝え合う活動を行う。前時まで慣れ親しんだ語彙や表現の方法を用いて、実際のやり取りでどのように表現すれば相手に発見の面白さが伝わるか、考え表現する児童の姿を期待する。活動の際、相手と目的を何度も確認しながら、ゴールから逸れないよう指導することも教師の大切な役割であると考えている。児童の話す内容に価値付けることで、児童の話す力・聞く力を伸ばすことができるようにしたい。

## 4 次時以降の活動について

夏休み後は、自由研究等で新たに発見したことをパビリオンに加えたり、新しいテーマを加えたりして再度伝え合う活動を行う。前回うまく伝わったこと、伝わらなかったことを踏まえて、さらに面白いものを自分の言葉で伝えたいという思いをもって活動に臨むことができるようにする。